

Dance Drill All Japan Competition 2022-23

Dance Challenge Cup

大会要項

1. **大会名称** Dance Challenge Cup / ダンスチャレンジカップ
2. **期 日** WEST 2022年12月24日(土)、25日(日)
EAST 2023年1月20日(金)、21日(土)、22日(日)
VTR 審査 2023年1月9日(月祝) 映像提出〆切・1月下旬審査結果送付予定
3. **会 場** WEST 南海浪切ホール(大阪府岸和田市港緑町 1-1)
EAST 有明コロシアム(東京都江東区有明 2-2-22)
4. **主 催** NPO(特定非営利活動法人)ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン
5. **大会参加費** 1 エントリー毎、チーム参加費 20,000 円(5 名分の参加費含む)参加者 1 名追加につき 4,000 円追加。4 名以下で参加の場合もチーム参加費 20,000 円が必要となる。
6. **エントリーについて**

参加同意書について

本大会要項をはじめ本法人の定める諸規定・ルールを確認・了承の上、代表者・選手・保護者の理解の元、参加同意を得た上で本大会へエントリーすること。

大会参加にあたり選手・引率の保護者(成人の場合本人)が記入した“参加同意書”(ホームページ内“各種書類”より取得)を収集・提出すること。

エントリー受付完了後、速やかに事務局まで登録者全員分の原本を郵送にて提出すること。

エントリー受付

- * エントリー総数には上限がある。エントリーは先着順。(予定エントリー定数は[特設ページ](#)に掲載)
- * エントリーは WEB 上のフォームで行う 1.チーム登録と Excel シートで行う 2.選手登録の二段階で行う。
- * 1.チーム登録及び 2.選手登録の受付をもってエントリーとする。

複数部門へのエントリー

- * 1 名につき同日内 2 エントリーまで可。
- * 複数部門に出場する場合は重複関係がわかるよう 2.選手登録シートに記載すること。

VTR 審査

- * 規定に則り撮影・提出された映像をもって審査を行う。
- * 撮影方法および提出方法は別紙「VTR 審査撮影ガイドライン」(ホームページ内“各種書類”より取得)を参照。
- * 映像提出について
2023年1月9日(月祝)までに後記“審査映像提出先”に記載の宛先に提出すること。
- * 審査結果送付時期
2023年1月下旬に発送予定。
- * VTR 審査はエントリー総数に上限はない。

エントリー方法およびエントリー期間

- * [特設ページ](#)より参加希望の日時・会場を選択の上、1.チーム登録を行うこと。

WEST申込 2022年10月17日(月)12時~24時まで

EAST申込 2022年10月24日(月)12時~24時まで

VTR審査申込 2022年10月28日(金)12時より10月31日(月)17時まで

- * 申込期間中でもエントリー定数に達した時点でエントリーを締め切る。
- * エントリー締め切り後(エントリー翌日予定)に大会事務局より確認メールを送信する。
確認メールを受信するまで電話での問い合わせ・受付前のお金は行わないこと。
- * 2.選手登録シートは確認メールに記載のリンク先より取得すること。
- * 2.選手登録シート提出期限

WEST 2022年10月20日(木)中

EAST 2022年10月27日(木)中

- * VTR 審査 2022年11月6日(日)中

エントリーの注意事項

- * 1.チーム登録フォームに入力漏れ、不備があった場合は**無効**となる。
- * 2.選手登録シートは Excel 形式のみ受付可。Numbers・PDF等その他のファイル形式は受付不可。
- * エントリー後の増員、メンバー変更は参加費の入金期日までに修正した 2.選手登録シートを再度提出すること。
- * 同一内容のエントリーを複数行った場合は同一団体からのすべてのエントリーを**無効**とする。
- * 1.チーム登録後の大会区分・出場日の変更はできない。

7. 大会時の引率・音響係について

I 引率登録

- ◀ 大会当日はエントリーごとに引率2名を登録・帯同することができる。
- ◀ 引率の登録はエントリー時に 2.選手登録シートに記載すること。
エントリー時に引率者が確定していない場合は引率予定者を記入し確定後速やかに再提出すること。
- ◀ 登録費は不要。大会当日は登録選手と行動を共にすることができる。

I 引率について

- ◀ 引率責任者は 18歳以上に限る。
- ◀ 引率登録者は別に定める大会規約に則り大会出場に関するチームの責任の一切を負う。
- ◀ 大会当日の選手受付は引率登録者が行うこと。

I 音響係について

- ◀ 引率登録者内で大会当日の音響係を定めること。
- ◀ 大会当日、持参した音源再生用デバイスでの再生に不備がないか確認すること。
- ◀ 本番演技時音響席にて持参した 音源再生用デバイス(デジタルオーディオプレイヤーまたはスマートフォン)を使用して音源の再生を行う。
主催者が準備をする3.5mmステレオミニプラグ(イヤホンプラグ)を持参した音源再生用デ

バイスに自身で接続すること。

- ◀ 音源再生用デバイスに収めたものと同様の予備音源(USB メモリ)を持参すること。
- ◀ 13 項「演技前、演技中の中断について」(2)、(3)の申告・申請の判断をすること。

8. 実施部門及び編成

編成	出場資格	実施部門					
		Challenge Pom	Song/Pom	Jazz	Hip Hop	Dance Drill	Solo Duet/Trio
Tiny	出場選手全員が未就学児の編成		×				
Mini	出場選手全員が小学校4年生以下						
Youth	出場選手全員が小学校6年生以下						
Junior	出場選手全員が中学生以下						
Senior	出場選手全員が高校生以下						
Open	年齢による出場制限なし						

* 出場編成は年長者の出場選手に合わせること。

* 3名以下でエントリーする場合は「Solo、Duet/Trio」部門か「Challenge Pom、Song/Pom、Jazz、Hip Hop、Dance Drill」の各部門でエントリーするか選択できる。

9. 演技時間

Challenge Pom、Song/Pom、Jazz、Hip Hop、Dance Drill 部門 2分15秒以内

Solo、Duet/Trio 部門 1分30秒以内

演技時間とは動き出しもしくは曲の始まりから動き終わりもしくは曲の終わりまでとする。

10. 評価について

下記点数によりエントリー選手全員にそれぞれ金、銀、銅のメダルが送られる。

メダル	銅	銀	金
点数	~ 69 点	70 ~ 79 点	80 点 ~

11. 演技フロア

- a) 演技フロアのサイズは別紙を確認すること。
- b) 演技フロアの中央に縦のラインを引く。さらにセンターポイントとして横に1mラインを引く。
- c) 全ての演技は演技フロアの中で行わなければならない。
- d) 演技フロア保護のために出場選手はピンヒール等の床に傷のつく恐れのあるシューズを着用してはならない。

また演技に使用するバトン・プロップ等は先端や床との設置面にゴム等を装着し床に傷を付けない処置をすること。

12. 音源について

- a) 9項が定める演技時間内に収まるよう編集すること。
- b) 音楽ファイルはWAV、AAC、MP3のいずれかのデータ形式で作成すること。
- c) 編曲されている場合でも1曲として編集すること。
- d) 違法ダウンロードによる楽曲(サンプル楽曲含む)を使用しないこと。
- e) ファイル名を「出場日」、「エントリーNo.」、「出場部門」、「チーム名」に変換すること。
例：20221224_01_POM_ダンスドリルチーム
- f) 本番演技で使用する音源は各チームが持参する音源再生用デバイス(デジタルオーディオプレイヤーまたはスマートフォン)にて再生する。
- g) タイムテーブル発表後、大会の一週間前までに別紙「大会使用音楽届出」(ホームページ Top ページ右上「各種書類」より取得)に必要事項を入力の上、選手登録シートの提出と同様のメールアドレスまで提出すること。
提出はメール添付もしくは Dropbox リンクを利用すること。
- h) 出場に関しての留意事項
曲の歌詞はすべての観客が聞くに相応しいものであるよう最大限の努力をすること。
日本語以外の歌詞の楽曲を使用する際はその歌詞に不適切な言葉がないか必ず確認をすること。

13. 演技前、演技中の中断について

- (1) 怪我等の発生、施設・音響機材の不具合、道具類のトラブル等の不測の事態が発生した場合は主催者の判断で演技を中断することができる。
- (2) チームの音響係による主催者音響スタッフへの申告で演技を中断することができる。
- (3) 演技の中断が発生した場合、再演技の申請をすることができる。
- (4) 再演技は1曲通しで行うこととし審査は演技中断以降の部分のみが対象とする。
- (5) 再演技の可否および実施タイミングは主催者が判断する。
- (6) チームの過失による中断は原則再演技を認めない。

14. セーフティガイドライン

本大会では、安全に競技を行うため、下記のセーフティガイドラインを設定する。

- A. シューズを必ず着用すること。(スキンスューズ等は可)
スカート・ブリーフ・ホットパンツ等、丈の短い衣装の場合は必ずタイツを着用すること。
衣装の一部としてアクセサリを着用することは可。
- B. 手具(ポンポン、バトンなど)を持った状態での演技フロア上での体重をかける技やタンプリングは禁止。(ストールなどを含む)
例外：前転・後転・ショルダーロールは認められる。
- C. 空中から足の裏以外で着地することは禁止とする。技の失敗もこれに含む。
ただし腰の高さを上回らない空中からであれば肩、背中、座位での着地は実施可。

いかなるジャンプからでも、腕立て伏せのポジションでの着地は実施可。

- D. 空中で回転を伴うアクロバット技については一人で行うこと。(バックフリップ、側宙、バク転、前方転回など)

- E. ペアやグループで行う技は下記の条件下で実施可とする。

体重がかかる手に何も持っていない状態で他の選手に接していること。

トップの選手の高さの上限はベースの選手の肩の高さでの直立姿勢とする。

トップの選手の腰がベースの選手の頭の高さを超える場合、ベースを 3 人以上つけること。

フロアへの着地の際、ベースの選手がトップの選手を投げ上げてはならない。

ベースの選手は乗り込みから着地までトップの選手に触れていること。

* ただしトップの選手の腰がベースの選手の肩を超えない高さからであればベースの選手から離れプッシュオフ、ジャンプ、リープなどで着地することは可。

前後方向の回転を伴う乗り込み・フロアへの着地は禁止とする。

- F. Challenge Pom 部門【Tiny/Mini/Youth 編成】

上記 A ~ D に加えて下記の規定を順守すること。

- * Kick

○ すべて実施可。

- * Turn

○ ピルエットはパッセ 2 回転まで実施可。

○ ピケ、シェネ 2 連続まで実施可。

○ フェットターンは実施不可。

- * Jump & Leap

○ スタートから着地までに足のポジションや体の向きが変わるものは実施不可。

例：実施可 トータッチ、ジュッテなど

実施不可 スイッチリープ、ジュッテセカンドなど

○ 回転を伴うものは実施不可。(ソデバスク、カリプソなど)

○ コンビネーションは 2 連続まで実施可。(ダブルトータッチ、ジュッテ 2 連続など)

コンビネーションとは、テクニックとテクニックの間に 1 カウント以上のステップやポーズ、振付を挟まず連続して行うことを指す。

- * アクロバット

○ 前転・後転・ショルダーロールのみ実施可。

- * ペア・グループ

○ ペアやグループで行う技は実施不可。

- G. Challenge Pom 部門【Junior/Senior/Open 編成】

上記 A ~ D に加えて下記の規定を順守すること。

- * Kick

○ すべて実施可。

- * Turn

○ ピルエットは 2 回転まで実施可。足のポジションは自由とする。

○ ピケ、シェネ 2 連続まで実施可。

○ フェットターンはグランフェット、アラセゴンフェットのみ、シングルターン 3 周まで可。脚のポジションの変更は不可。他の技と繋げてはならない。実施は演技を通して 1 箇所までとする。

* Jump & Leap

○ スタートから着地までに足のポジションや体の向きが変わるものは実施不可。

例：実施可 トータッチ、ジュッテなど

実施不可 スイッチリーブ、ジュッテセカンドなど

○ 回転を伴うものは実施不可。(ソデバスク、カリブソなど)

○ コンビネーションは 2 連続まで実施可。(ダブルトータッチ、ジュッテ 2 連続など)

コンビネーションとは、テクニックとテクニックの間に 1 カウント以上のステップやポーズ、振付を挟まず連続して行うことを指す。

* アクロバット

○ 前転・後転・側転・ショルダーロールのみ実施可。

* ペア・グループ

○ ペアで行う、両者が床から離れずに体重をかける・かけ合う技は実施可。

H. その他、審判員が危険とみなした行為。

15. ペナルティ(全部門共通)

9 項が定める演技時間を 5 秒超過した場合は結果より **2 点減点**する。

11 項 d)演技フロア保護の為の適切な処置がされなかった場合、**失格および修繕の為の実費を請求する。**

14 項が定める禁止事項一回の実施につき、結果より **2 点減点**する。

審判員が危険とみなした行為を実施した場合、その程度により**警告、減点、失格**とする。

16. 共通審査項目

フロア全体を使い SHOW UP された観客を魅了するパフォーマンスとその完成度が要求される。

部門ごとのテクニックにおいて難度の高さがすべてではない。

未熟なものは逆に作品の完成度を下げってしまうことになる。

【演技内容】

- i) チーム / 部門ごとのオリジナリティある演技。
- j) 多様なフロアの使い方、フォーメーションの連続性のある移り変わり。
- k) 技の難度がチームのレベルにあっていること。

【実施】

- l 正確さ。(一致した動き、人と人との間隔が均等であることなど)

【演技者としての自覚】

- l 観客を楽しませる表情、表現力、アピール。

【外見】

- l 工夫を凝らした美しい衣装。(年齢に合ったものを着用し、観客に不快感を与えるものは避けること。)

17. 部門毎の審査ポイント

下記にあるテクニックとは各年代・チームにあったテクニックを指す。

Challenge Pom・Song/Pom

POMを生かし、視覚的効果のある構成と正確でシャープなアームモーションが求められる。

全員で全体の80%以上POMを使用すること。

Jazz

ダンステクニックと振付-音楽が融合した構成、技術の正確性とバレエベーシックが求められる。

Hip Hop

音楽と調和した連続性のある構成と、技術の正確性、ボディコントロールが求められる。

Dance Drill

設定されている部門以外のダンスジャンルであること。

各ジャンル(プロップ/メジャーレット/フラッグ等)の特徴を生かした構成が求められる。

Solo

ダンステクニックと振付-音楽が融合した構成、技術の正確性とバレエベーシックが求められる。

また、1人でどこまで会場を魅了できるかが重要となる。

Duet/Trio

各ジャンルのダンステクニックと振付-音楽が融合した構成、技術の正確性が求められる。

上記 ~ までのジャンルがベースになっている事が望ましい。

18. その他

新型コロナウイルスの感染防止の為に厚生労働省、文部科学省、スポーツ庁をはじめ都道府県や市区町村、選手が所属する学校等が定めたガイドラインを参考に大会へ向けた練習を行うこと。

必ずしも難度の高さが評価につながるものではない。

〈推奨しない演技内容〉

○ 選手同士が接触する行為

○ 選手同士が向き合う行為

○ 選手同士でバトンやフラッグ、プロップ等を共有する行為

上記に関して実施しても減点・ペナルティはないが感染防止を念頭にチーム責任者・選手・保護者の理解の元に実施内容を検討すること。

19. 大会に関するお問い合わせ

NPO(特定非営利活動法人)ミスダンスドリルチーム・インターナショナル・ジャパン

問い合わせメールアドレス：info@dancedrilljapan.com

ホームページ <http://www.dancedrilljapan.com/>

郵送での提出先：〒102-0083 東京都千代田区麹町 2-5-20 押田ビル 3F 電話番号 03-3556-6080

審査映像提出先：vtr@dancedrilljapan.com